

こんにちは  
健保組合  
です！

事業所  
訪問

南総通運(株)  
の巻

▼健康づくりとして  
朝礼のラジオ体操



こうした体制と健康保険組合の役割がうまくマッチすることにより、生産性の向上と、ますますの業界の発展につながることを、実感しました。

約三〇分後、土屋社長がお見えになり、医療保険全般についての話が進みました。高齢化社会での老人に対する医療福祉対策をどうしたらいいのかなど、かなり専門的な観点からの談話になり、いっそう雰囲気盛り上がりしました。

また、組合事業について、地域ごと利用できるドック等の検診機関がないことで不便を感じるので検討してほしいとの要望が出されました。懇談も佳境に入ったころ、社会保険委員をされている宮田専務が来られ、社会保険行政についてのお話がありました。副社長からはさらに、救急常備薬について、仕事柄、「シツプ薬」を増やしてほしいとの要望もありました。

また、これからの医療の方向というテーマで、アメリカの医療保険制度についてのお話がありました。アメリカの医療は今後、予防医学に変わりつつあるとのこと。健康保険組合が担う役割の一つである疾病

平成三年一月号で予告しましたとおり、本誌をおとして皆さんの事業所の生の声をお届けすることになりました。その試みの第一号になりましたが、今回は、東金市に所在する南総通運(株)を訪問し、土屋社長はじめ、役員の方々から、大変有意義なお話をうかがいました。

『こんにちは、健保組合です！』玄関を入ると、整然とした事務所の受付カウンターの上に、春を告げる美しい生花が飾られていました。通りに面した明るい応接室の中で、私たちが最初に視線を投じてしまったのは、書籍棚にある『家庭の医学』の本でした。これは健康保険組合が配付したものです。

取材の試みは初めてのことで、緊張していました。出されたお茶をいただいていると、まもなく中村総務

部長が、職員の健康管理に関する資料を持って、入室されました。

資料を拝見しながら、いろいろな話をうかがいましたが、中でも私たちが感心したのは、産業医をフルに活用しての検診、メンタルな部分でのカウンセリング、検診後のフォローなどを熱心に実施していること、また、衛生管理の面で委員会を設けて精力的に活動し、従業員が安心して働ける職場づくりをめざしていることです。

のちにお見えになった今井副社長が、地域の基準協会長をなさっていることをきいて、会社ぐるみの健康管理・事故防止に対する熱心な姿勢が、強くうかがえました。

▼厚生事業の一環として行われた納涼会



予防について、ますますの充実が望まれていることを実感しました。

最後に、国際情勢、とくに中東問題についての意見交換もなされました。

こうしてこの日は、非常に有意義な時間を私たちのために割いていただきました。取材にご協力いただいた土屋社長をはじめ、役員の方皆さん、ありがとうございました。